

ISO39001の取得と交通事故防止

業務実態に則したしくみをつくり  
継続的改善に取り組むことで  
大きな成果につながる

ISO39001とは、平成24年10月に発行された道路交通安全のために組織が取り組むべき要求事項を定めた国際規格、RTSMS (Road Traffic Safety Management System) のことである。

今月のテーマでは、ISO主任審査員、ISOコンサルタントとして活躍されているあおいコンサルタント株式会社の代表取締役である山本昌幸氏に、同規格が誕生した経緯やコンサルタント、また、認証を取得することのメリット等について詳しくお話を伺った。



あおいコンサルタント株式会社  
取締役 営業担当 マネージャー

山本 昌幸氏

はじめに、ISO39001という規格はどのようなものでしょうか。「ISO」と言えば、自社の製品やサービスの質を向上させ、顧客満足を得るためのしくみであるISO9001(QMS:品質マネジメントシステム)や、環境にやさしい組織活動を行うしくみや環境にやさしい組織活動を行うしくみやマネジメントシステム)等がよく知られていると思います。

では、ISO39001はどのような規格かと言うと、道路交通安全マネジメントシステム(RTSMS)のことで、

ISO39001とは  
交通事故・重傷事故を  
ゼロにするための「しくみ」

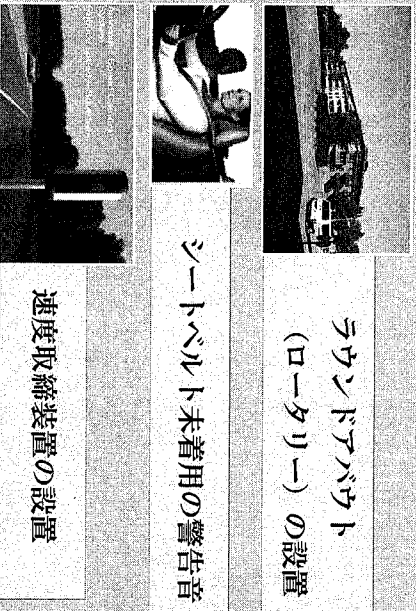
山本 昌幸 / Masayuki Yamamoto  
行政書士・社会保険労務士事務所と運営コンサルタント会社を開業し、運送業、建設業を対象に許認可、労働社会保険事務、労務管理、人事制度、目標管理、経営改善及びビジュアル対策に携わる。また、ISO9001及びISO14001主任審査員として活躍。700件以上の企業に対するISO審査の経験を活かし、経営改善指導を得意とする。『運輸安全マネジメント構築・運営マニュアル』(日本法令)をはじめ、著書多数。

プロフィール

交通事故死亡事故・重傷事故をゼロにするためのしくみです。

現在、世界中で毎年約130万人以上が交通事故で死亡し、同様に5,000万人以上が負傷していると言われています。この状況のもと、国連が「道路交通安全10か年行動計画（2011～2020）」を策定する等、道路交通安全に関する取組みは世界的な懸案事項であり、そこで注目されているのがISO39001なのです。

「ウエイション・ゼロ」を導入しているスウェーデンや他のヨーロッパ諸国は具体的にどのような取り組みで成果を挙げているのか？（ほんの一例を紹介すると）



——ISO39001策定の議長国はスウェーデンだと聞きましたか？

そうです。スウェーデンは交通事故死亡事故・重傷事故削減の先進国です。スウェーデン道路交通庁が交通事故死亡事故・重傷事故ゼロを目指す取り組みとして1997年に掲げた「ウエイション・ゼロ」という政策が国会で承認され、翌1998年から国・民間を挙げて取り組みがなされました。

主に、道路や自動車の構造等、ハード面の安全対策を強化して推し進めたところ、ヨーロッパ諸国からも注目を浴びるほどのめざましい効果が上がったのです。

そのような経緯もあり、同国からISO39001の提案がなされ、議長国となりました。ちなみに、同規格策定の委員会である「TC241委員会」には、メンバー国として日本を含めた20か国以上が参加しています。

### 交通事故をなくすことで 直接的・間接的損失が激減し 純利益、をもたらし

ISO39001に取り組むべき組織としては、どのような団体等が挙げられますか？

ISO39001は道路交通システムを利用する公的な組織、私的な組織を問

わず適用できます。

交通事故の削減は、政府等の公的機関だけで取り組んでも成果を上げるには限界があります。

そこで、あらゆる規模の組織や道路を利用している人々が取り組む必要があります。

交通事故死亡事故・重傷事故の加害者・被害者になり得る可能性のある組織及び、発生に関連する組織としては、

- ・トラック・バス・タクシー等の運送業者
  - ・荷主企業
  - ・社有車を保有する組織
  - ・学校等の公共施設
  - ・道路を施工する建設業者
  - ・自動車教習所
  - ・スーパーマーケット・パチンコ店等
  - ・自動車メーカー
  - ・道路を設計するコンサルタント
  - ・その他のあらゆる組織
- 等が挙げられます。

これは、道路交通の安全というのは公共の道路に限定されるものではなく、商業施設の駐車スペースとか、工場の敷地（構内）等も含まれると理解していただければよいでしょう。

また、マイカー通勤や自転車通勤をしている従業員がいる場合も関連があると云えます。

つまり、業種・規模等を問わず、幅広い組織が対象になります。

ISO39001に取り組んだ場合の成果・メリットとしては、どのようなものが挙げられますか？

ISO9001やISO14001については、取り組んだことで得られる成



果が具現化されにくい面もありますが、このISO39001については、交通事故削減（規格上は、前述のように死亡事故・重傷事故の削減）が目的ですので、得られる成果がとても明確にわかり

ます。同時に、以下のようなメリットがあります。

まず第一に、損害保険料が激減します。事業所の規模や保険内容にもよりますが、交通事故が減少し、支払保険金を半減することができれば、年間で数百万円の経費削減をもたらします。言い換えれば、それだけの「純利益」が加算されることになるわけです。

また、責任ある立場の人が被害者等へ謝罪に赴いたり、交通事故処理に係る手間が省ける、車両修理代等の経費が削減

できること等が挙げられます。

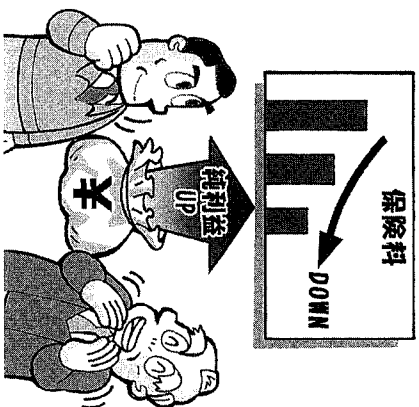
### 企業ブランドの向上や信頼の獲得といったメリットが期待できる

多くの成果やメリットがありますね。

そうですね。ほかにも、交通事故削減は環境負荷の低減をもたらすことから、環境保全企業であるとも言えます。

あとは、取引先・顧客から高い評価・信頼を得ることができるとも期待で

きます。



ISO39001に取り組めば...

荷主企業については、「輸送を依頼する立場」ですが、実際に運送業者を選択

する場合、「自社製品を安全・確実に運んでくれる運送業者を選ぼう」ということとなるのは当然です。

とくに、荷主企業がISO9001（QMS）に取り組んでいるのであれば、なおさらでしょう。

このとき、「ISO39001の認証を取得している運送業者」というステータスが信頼の獲得や企業ブランドの向上につながることも考えられます。

また、荷主企業自体がISO39001に取り組んでいるケースであれば、その企業の物流を担う運送業者にISO39001の取得要請が出るといったこと

があるかもしれないですね。

実際にISO39001に取り組むうえで、どのようなことを意識し

てすすめるのがよいでしょうか？

たとえば、車両にバックカメラを搭載したり、交通安全教育を実施する等のことも、交通事故を減らすための手段

として効果的だと思います。

しかし、これらの取組みはいわば断片的なものですが、一つの取組みがリシ

クしていないので、効果が出にくい等、限界があります。

効果を上げ、限界を打破しながら継続

的に改善をすすめていくためには、プロセス管理と「マネジメントシステム」が

重要不可欠です。



ISO39001は

ISO9001・14001と

類似性が高い

「プロセスシステム」というP

DCサイクルを回して活動すること

いことですね？

ISO39001はISO9001、

ISO14001と類似性が高いです。

交通事故削減に向けてしゅみを回してい

くところはISO9001（運輸安全マ

ネジメント）、リスク評価の考え方はI

SO14001と似ています。

交通事故削減のための取組みを横断的

に進めるしゅみとしてPDCAを回して

いくのが、ISO39001なのです。

ここで、もっとも重要なのが、リスク

評価（交通死亡・重傷事故につながる要

因の洗い出し）を行い、その結果を踏ま

えて自組織に該当する「プロセス

マックス」を決定・管理していくことで

す。これがISO39001の核となる

部分と言えます。

「プロセスマックス」について

詳しく教えてください。

以下の10項目あります。

①重傷事故・死亡事故が起りにくい

道路設計と安全な速度

②ユーザー（利用者、車両種類）ごと

の適切な道路の利用

③ヒトが利用する安全機器（シートベ

ルト、ヘルメット、チャイルドシ

ト等）の利用

④車輛タイプや天候、状況等を考慮し

た安全速度

⑤疲労、アルコール及び薬物等を考慮

したドライバーの健康状態

⑥車輛、ドライバーの選択等を考慮し

た安全な計画（運行管理計画、配送

計画、旅行計画、出勤表等）

⑦安全な乗り物の導入

⑧適切な運転免許やそのほかの認可

⑨不適切な車輛、運転手、乗客等の道

路網からの排除

ISO39001認証取得にむけた取組みの具体例

- ①経営層（トップマネジメント）として、死亡・重傷事故防止のために必要なさまざまなことをコミットメント（≒公約）する
- ②「道路交通安全マネジメント」を策定する
- ③「死亡・重傷事故につながるリスク」と「死亡・重傷事故につながる要因」を特定する
- ④目的、目標を決定し、その達成手段も策定する
- ⑤しゅみの運用に必要な経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報等）を明確にする
- ⑥ヒトについて必要な力量を明確にして、運用にあたらせる
- ⑦社内・社外の情報共有のしゅみを構築し運用する
- ⑧死亡・重傷事故防止を実現するために決定したしゅみを運用する
- ⑨緊急事態の定義を決定し防止・軽減する
- ⑩運用の結果を評価する
- ⑪ヒヤリ・ハット活動を取り入れ運用する
- ⑫内部監査を実施する
- ⑬マネジメントレビューを実施する
- ⑭継続的改善を実現する  
(前述の①～⑩は順不同の可能性あり)

⑩衝突後の対応と応急手当、緊急事態への準備及び衝突後の回復とリハビリ

ただし、リスク評価の結果、管理するプロセスアイテムはこの10項目に限

定する必要はなく、これ以外に管理しな

くてはならない項目が検出される可能性

もあり、追加して決定する場合もあるでしょう。

※ISO39001のPDCAサイクルについては、左表をご参照ください。

## ISO39001の取得を ゴールと考えるスタートする 運用の維持が困難になる

ISO39001に取り組みたい  
くうえで留意点はありますか？

運送業者が取り組む場合は、やはり法令遵守という点が重要となります。必ず

運送業関連の法令を認識したうえで取り組む必要があります。また、先に述べた

ように、ISO9001やISO14001との類似性が高いので、それぞれの

知識を得ておくことも大切です。

あとは、コンサルティングを頼って取得を目指すこと自体は問題ではないので

が、担当者からあらかじめ用意したプランを目の前に広げられ「このとおりにやっ

てください」と型にはめたようなしくみを導入してしまうことは問題です。努力

すれば、審査に合格することまでは難しくないですが、その後が大変です。今ま

での業務実態とは異なるしくみであるほど、継続が困難になるからです。

つまり、その組織が持つ利点、強みを活かし、実態に即した取組みをISO39001のしくみに反映していくスタン

スで計画を進めることも重要です。

あるべき論に傾いてはいけないという  
ことですね？

そうです。私はこのISO39001

を「ごまかしの効かない骨太のISO」

と言っています。とくに運送業者が取得

した場合、運輸安全マネジメントの関係から事業所で発生した事故を公表しなけ

ればなりませんから、事故が増えていれば周りからは「どうなっているんだ？」

という目で見られることとなります。

反面、しくみをしっかり構築して真面目に取り組んでいけば、どんな組織でも

結果が伴うはずですよ。

まず、認証を取得することがゴール(目的)ではありません。これをいかに

継続するかが肝心なのです。

いったん取得したものを「やめよう」と決断することは、とても勇気がいると

思います。

認証を返上すること自体は難しい手続きではありませんが、周囲からは「運用

が維持できなかつた」と見られるでしょう。そこで、「取得は容易だが、やめるの

はとても大変なこと」だということをやよく理解してからスタートしていただきたい

と思います。

反面、取得した組織は、自分たちがどのような取組みをしているのか、どういう

成果が上がっているのかを大いにPRすることが大切です。

こういったところまで着実に実行して初めて差別化を図ることができます。

ほかにも気をつけておくべきこと  
はありますか？

ISO39001に取り組み

交通事故をなくすためには  
コミュニケーションの充実に不可欠！

私は、交通事故をなくすためにはヒュー

マンエラーを防ぐ取組みが不可欠だと考えています。人間はミスをするもので

すから、車や機械を操作するうえで事故を起こさないためには、ミスをしないし

くみをつくることも必要だと思えます。

あわせて、交通事故防止対策のなかで「メンタルヘルズ」という要素も重要な

点だと思います。

たとえば、漫然運転による追突事故と処理された事例のなかにも、その要因

を詳しく調べていくと、運転前に上司に小言を言われたとか、金銭的な悩みを抱

えていた等が遠因になっているケースがあります。今後は、交通事故防止対策

としてこういった部分へのアプローチにも

も焦点があたると思えます。

最後に、あらゆることを円滑に進めるための「要」と言えるものは、「コミュニ

ケーションの充実」に尽きると思えます。

職場では、常日頃から朝礼や点呼の際に運転者一人ひとりの様子をうかがうこ

とを心がけ、気になることがあれば声を掛けたり聴き取る等の行動が大切です。

ありがとうございます。

事故削減の取り組みがもたらす経済的メリット

【試算条件】

- 営業用普通貨物自動車（2 t超）50台
- 保険種類：事業用総合自動車保険
- 保険期間：1年間
- 現在の割引：優良割引25%、フリート多数割引5%
- 払込方法：一時払 ● 安全装置：何もなし
- 補償内容：
  - ・ 対人無制限、対物2000万（免責5万）、人身傷害3000万
  - ・ 対人臨時費用あり、対物差額費用あり
  - ・ 自損事故担保、無保険車傷害担保
- その他：上記以外割引なし
- 1台あたり保険料：272,170円
- 50台分保険料：13,608,500円

上記の契約で、優良割引の25%を維持するためには（既存契約と同一の保険料）、支払保険金の額が「850万円」以内であることが必要です。

しかし、事故が半減し、支払保険金の額も仮に半分の「425万円」になると、翌年の優良割引が「37%」となり、保険料は「11,275,500円」となります。その結果…

**13,608,500円 - 11,275,500円 = 2,333,000円の削減が可能**

支払保険金額を半額にできるのか？

ISO39001と類似の取り組みである「運輸安全マネジメント」に取り組んでいる運輸事業者の支払保険金額が半額になったデータが！

資料出典元：

運輸の安全確保に関する政策ビジョン  
～特に、安全管理体制の確保について～

平成23年12月 国土交通省発行

ある運輸事業者は、3年で事故が15分の1に！

